

2023年度環境経営レポート

(対象期間：2023年1月～12月)



明石化成工業株式会社

発行日：2024年 3月28日

改定日：2024年10月25日



機械加工・射出成型のナビゲーター

金属&樹脂加工

Navi
by きしグループ



目次

・ ごあいさつ	P3
・ 環境経営方針	P4
・ 経営基本方針と品質方針	P5
・ 会社概要	P6 - 10
・ 環境目標と実績	P11 - 13
・ 環境活動計画及び取組結果とその評価 次年度への展開	P14 - 16
・ 環境関連法規など遵守状況	P16
取り組み①「電気、ガス、水の削減」	P17 18
取り組み②「照明器具の省電力対応」	P19
取り組み③「ガソリン・軽油の削減」	P20
取り組み④「一般廃棄物の計量」	P21
取り組み⑤「産業廃棄物置き場の明確化」	P22
取り組み⑥「プラスチック再利用への取組」	P23 - 25
取り組み⑦「緊急事態への対応」	P26
取り組み⑧「国際プラスチックフェア出展」	P27
・ 代表者の評価と活動への指示	P28

ごあいさつ

明石化成工業株式会社は1960年の創業以来、精密性、効率性を極めるものづくりに邁進して参りました。また、2013年には環境負荷軽減への社会的ニーズを捉え、持続可能な社会の実現に貢献すべく、太陽光発電事業もスタートしました。

これまでも企業活動において環境負荷の計測、低減活動に取り組んで参りましたが、近年環境意識がますます高まる中、企業の社会的責任として環境マネジメントシステムの導入は必要不可欠であり、この度、環境省推奨のエコアクション21を取得することにいたしました。

本レポートの通り、私たちが取り組む環境経営活動を具体化し、取り組みの成果と進捗状況をご報告する共に、これからも地域未来牽引企業として環境課題に積極的に取り組み、持続可能でより良い未来を実現する為にリーダーシップを発揮して、あらゆるステークスホルダーの信頼と期待に応えていくことをお約束します。

明石化成工業株式会社
代表取締役社長 松本好隆

環境経営方針

明石化成工業株式会社

環境経営方針

弊社は、ますます深刻化する地球温暖化や、地下資源の枯渇などの環境問題が、経営の重要課題との認識にたち、事業活動全般における環境負荷の低減を図るために、社員一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みを継続します。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①電力及び燃料使用による二酸化炭素排出量削減に努めます
 - ②廃棄プラスチックや一般廃棄物の削減に努めます
 - ③プラスチックの再利用に努めます
 - ④水道水使用量の削減に努めます
 - ⑤化学物質の適正管理に努めます
 - ⑥事業活動全般にわたり環境配慮を推進します

取組の重点分野

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。
4. この環境方針は、全従業員に周知・徹底します。

制定日：2023年 3月 1日

代表取締役

松本好隆

経営基本方針と品質方針

経営基本方針

当社はプラスチック製品の製造（加工、組み立てを含む）を行う企業として、堅実経営と技術の向上に努め、顧客の要望に高い満足度をもって対応するとともに、社会に貢献する。

品質方針

当社は、経営基本方針達成の為、次の事項を実行することをもって品質方針とする。

1. 品質マネジメントシステムの要求事項を満たし、その有効性を継続的に改善し、顧客の満足度を向上させる。
2. プラスチック製品の製造にあたっては、関連法規を遵守し、常に社会的責任の遂行に努め、優秀な品質の製品を提供し顧客の期待に応える。
3. 品質目標を設定し、達成を目指して全員参加で活動する。
4. 顧客の満足度を確認し、品質目標の検証、見直しを行い、継続的改善に積極的に取り組む。

2016 年 7 月 1 日

明石化成工業株式会社
代表取締役

松本好隆

会社概要

【事業者名】	明石化成工業株式会社
【代表者】	代表取締役社長 松本 好隆
【設立】	1960年 5月 12日
【所在地】	
[本社]	兵庫県明石市天文町2丁目3番地20号
[小野工場]	兵庫県小野市匠台20番地
[組立工場]	兵庫県小野市匠台50番地
[稲美工場]	兵庫県加古郡稲美町国安字小池の内1167-1
【資本金】	3,000万円
【従業員数】	75名（2023年12月31日時点）
【ISO】	ISO9001：2015 認証取得 JAB
【EMS】	エコアクション21 認証取得（2023年12月）
【沿革】	・ 1955年 3月 きしろ発動機(株)樹脂部として創業 ・ 1960年 5月 会社設立 ・ 1970年 3月 加古郡稲美町に稲美工場完成 ・ 1989年 9月 小野市に小野工場完成 ・ 2013年 5月 稲美太陽光発電所完成 ・ 2013年 7月 小野工場に南倉庫完成 ・ 2019年 6月 小野工場に北倉庫完成 ・ 2020年 1月 小野市に組立工場設立

【事業規模】

		本社	小野工場	組立工場	稲美工場
従業員	75 名	7 名	49 名	16 名	3 名
延べ床面積	11,970 m ²	50 m ²	7290 m ²	2000 m ²	2630 m ²

【事業年度】 1月～12月

【**認証登録 対象範囲**】

対象事業活動：プラスチック製品製造業

【環境管理責任者及び担当者連絡先】

連絡先：0794-62-3991

【主な取引先】

- ・ カワサキモーターズ(株)
- ・ (株)神鋼環境ソリューション
- ・ タイガースポリマー(株)
- ・ パナソニック
- ・ (株)神戸製鋼所
- ・ 神鋼商事(株)
- ・ 積水化学工業(株)
- ・ (株)ノーリツ

【製造品例】

①多彩な分野で貢献

自動車関連部品、二輪部品、住設部材、工業部品、設備部品等、多彩な分野でお客様の要望に対応します。

【自動車】エンジン吸排気系部品



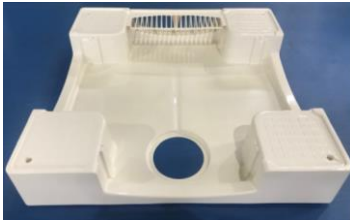
【自動二輪】外装部品



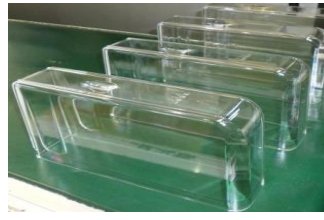
【産業機械】ロボット部品



【住設】洗濯機用防水パン



【家電】冷蔵庫製氷タンク



【工業用】電池製造ライン部品



②アSEMBリー

成形品に部品取り付けや組立加工を行い、アッシー納品を可能にしています。

【住設】排水トラップ



【住宅器機】お風呂リモコン



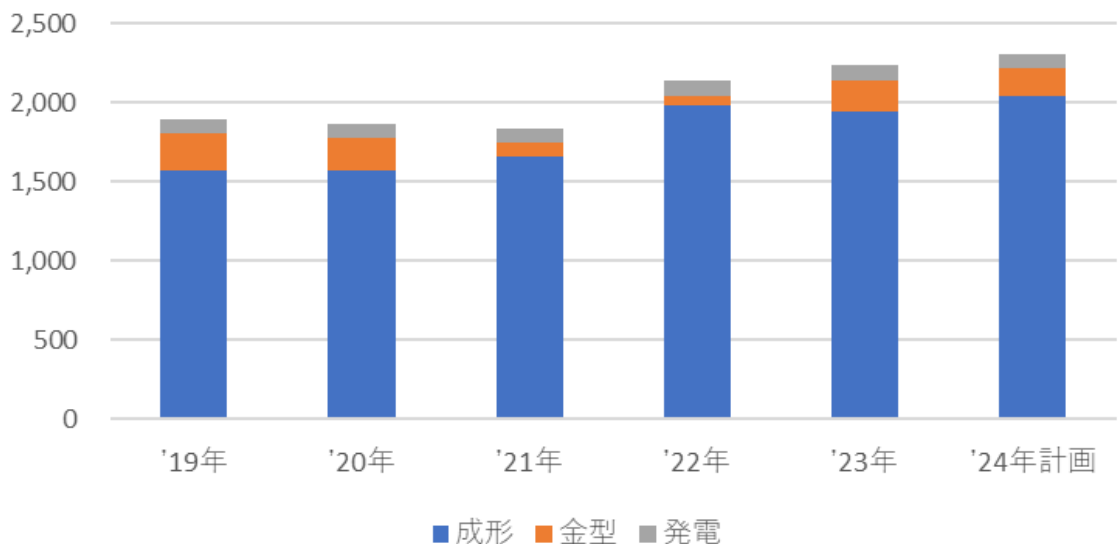
【公共設備】浄水場樹脂チェーン



【事業実績および計画】

単位：百万円

売上高



【 事業拠点 】



小野工場（小野市）



組立工場（小野市）



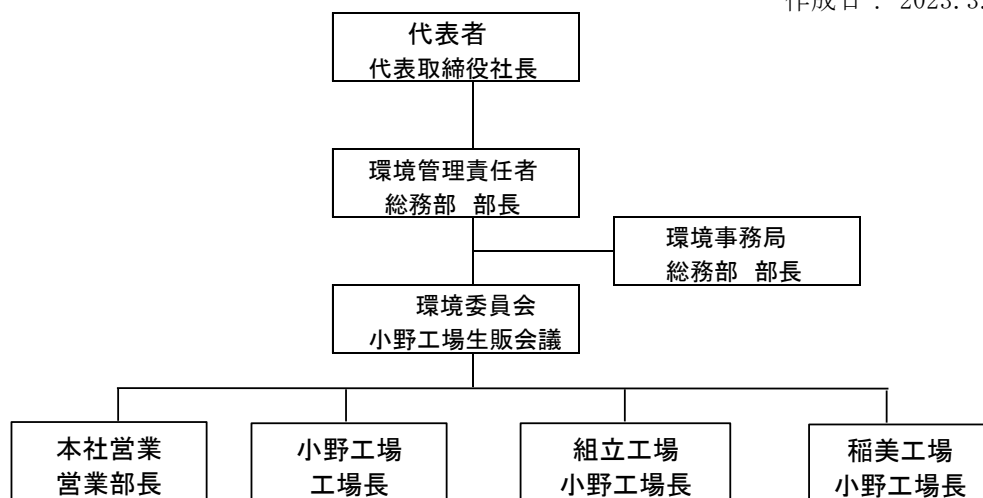
本社 営業（明石市）



稲美工場（加古郡稲美町）

【 環境経営組織図及び役割・責任・権限表 】

作成日： 2023. 3. 15



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境目標と実績

弊社の環境経営方針に基づき、本社、小野工場、組立工場、稲美工場 それぞれのサイト毎に環境経営計画書を策定し、活動を開始し、実績結果は下記の表となった。

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	971,763.4	948,002.9
廃棄物排出量			
一般廃棄物量排出量	kg	—	21,798.05
産業廃棄物排出量	トン	156.2	165.0
水使用量	m ³	811	787

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.311 kg-CO2/kWh (2021年度関西電力調整後排出係数)

二酸化炭素排出量にはプロパンガス分を含む。

注. 5 一般廃棄物排出量は、自治体が回収した可燃ごみ(2023年5月から計測し、1年間実績に換算)と、小野工場に集めて再資源化した廃棄段ボール(17,440.00kg)を合算した。

環境経営目標及びその実績

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.311 kg-CO2/kWh (2021年度関西電力調整後排出係数)

全社

項 目			年 度		2022年度 基準年度	2023年度			2024年度 注. 4	2025年度 注. 4
				(実績)	(目標)	(実績)	(評価)	(目標)	(目標)	
削 二 減 化 炭 素 排 出 量	電力	kg-CO2	936,959.7	918,220.5	909,412.2	達成	899,481.3	890,111.7		
		基準年度比	—	98.0%	97.1%		96.0%	95.0%		
	プロパンガス	kg-CO2	128.6	126.0	100.6	達成	123.4	122.1		
	基準年度比	—	98.0%	78.3%	96.0%		95.0%			
	自動車燃料（ガソリン・軽油）	kg-CO2	34,675.2	33,981.7	38,490.1	未達	33,635	33,288		
	基準年度比	—	98.0%	111.0%	97.0%		96.0%			
参考値 上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	971,763.4	—	948,002.9	—	—	—		
一般廃棄物の削減 注. 3		kg	—	実態把握	4,358.05	—	4,053	3,922		
		基準年度比	—	—	—		93.0%	90.0%		
産業廃棄物の削減 （最終処分量）		kg	89,267	86,589	86,150	達成	83,911	81,233		
		基準年度比	—	97.0%	96.5%		94.0%	91.0%		
水使用量の削減		m ³	811.0	770.5	787.0	未達	746	730		
		基準年度比	—	95.0%	97.0%		92.0%	90.0%		
化学物質の適正管理 注. 1		kg	—	適正管理	適正管理	達成	適正管理	適正管理		
		基準年度比	—	—	—		—	—		
環境に配慮した生産活動 （成形不良率の低減） 注. 2			—	個別活動	個別活動	達成	個別活動	個別活動		

注. 1 化学物質は金型洗浄剤です。品質に影響を及ぼす為、削減目標値は設定しない。

注. 2 不良率低減活動の対象品を選定し、個別に対策を行い、随時対象品を増やす。

注. 3 一般廃棄物削減は、自治体回収の可燃ごみを対象。自治体回収の可燃ごみは、2023年5月より計測を開始し、実績値を1年間に換算した。2023年度実績を基準値とする。

注. 4 組立工場の稲美工場への集約により、2022年度実績値を組立工場と稲美工場を合算して基準年度とし、2024年度以降は稲美工場のみ目標値を設定する。一般廃棄物は2023年実績を基準。

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.311 kg-CO2/kWh (2021年度関西電力調整後排出係数)

小野工場

年 度 項 目			2022年度 基準年度	2023年度			2024年度	2025年度
			(実績)	(目標)	(実績)	(評価)	(目標)	(目標)
削減 酸化 炭素 排出 量	電力	kg-CO2	906,913.6	888,775.4	877,959.2	達成	870,637.1	861,567.9
		基準年度比	—	98.0%	96.8%		96.0%	95.0%
	プロパンガス	kg-CO2	128.6	126.0	100.6	達成	123.4	122.1
		基準年度比	—	98.0%	78.3%		96.0%	95.0%
	自動車燃料（ガソリン・軽油）	kg-CO2	23,760.0	23,284.8	24,852.4	未達	23,047.2	22,809.6
		基準年度比	—	98.0%	104.6%		97.0%	96.0%
参考値 上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	930,802.2	—	902,912.2	—	—	—
一般廃棄物の削減 注. 3		kg	—	実態把握	3,473.61	—	3,230.5	3,126.2
		基準年度比	—	—	—		93.0%	90.0%
産業廃棄物の削減 （最終処分量）		kg	89,267	86,589	86,150	達成	83,911.0	81,233.0
		基準年度比	—	97.0%	96.5%		94.0%	91.0%
水使用量の削減		m³	493	468	492	未達	454	444
		基準年度比	—	95.0%	99.8%		92.0%	90.0%
化学物質の適正管理 注. 1		kg	—	適正管理	適正管理	達成	適正管理	適正管理
		基準年度比	—	—	—		—	—
環境に配慮した生産活動 （成形不良率の低減） 注. 2			—	個別活動	個別活動	達成	個別活動	個別活動

注. 1 化学物質は金型洗浄剤です。品質に影響を及ぼす為、削減目標値は設定しない。

注. 2 不良率低減活動の対象品を選定し、個別に対策し、随時対象品を増やす

注. 3 一般廃棄物削減は、自治体回収の可燃ごみを対象。自治体回収の可燃ごみは、2023年5月より計測を開始し、実績値を1年間に換算した。2023年度実績を基準値とする。

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.311 kg-CO2/kWh（2021年度関西電力調整後排出係数）

組立工場

年 度 項 目			2022年度 基準年度	2023年度			2024年度 注. 4	2025年度 注. 4
			(実績)	(目標)	(実績)	(評価)	(目標)	(目標)
排出 酸化 炭素 削減 量	電力	kg-CO2	13,539.1	13,268.3	12,553.5	達成	—	—
		基準年度比	—	98.0%	92.7%		—	—
	自動車燃料（ガソリン・軽油）	kg-CO2	1,067.9	1,046.5	1,052.5	未達	—	—
		基準年度比	—	98.0%	98.6%		—	—
参考値 上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	14,606.9	—	13,606.0	—	—	—
一般廃棄物の削減 注. 3		kg 基準年度比	— —	— —	713.55 —	—	— —	— —
水使用量の削減		m³ 基準年度比	120 —	114 95.0%	114 95.0%	達成	— —	— —

注. 3 一般廃棄物削減は、自治体回収の可燃ごみを対象。自治体回収の可燃ごみは、2023年5月より計測を開始し、実績値を1年間に換算した。2023年度実績を基準値とする。

注. 4 組立工場の稲美工場への集約により、2022年度実績値を組立工場と稲美工場を合算して基準年度とし、2024年度以降は稲美工場のみ目標値を設定する。一般廃棄物は2023年実績を基準。

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.311 kg-CO2/kWh（2021年度関西電力調整後排出係数）

稲美工場

年 度 項 目			2022年度 基準年度	2023年度			2022年度 基準年度 注. 4	2024年度 注. 4	2025年度 注. 4
			(実績)	(目標)	(実績)	(評価)	(実績)	(目標)	(目標)
排出 酸化 炭素 削減	電力	kg-CO2 基準年度比	16,507.0 —	16,176.8 98.0%	18,899.5 114.5%	未達	30,046.0 —	28,844.2 96.0%	28,543.7 95.0%
	自動車燃料（ガ ソリン・軽油）	kg-CO2 基準年度比	— —	— —	— —	—	1,067.9 —	1,035.8 97.0%	1,025.1 96.0%
参考値 上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	16,507.0	—	18,899.5	—	31,113.9	—	—
一般廃棄物の削減 注. 3		kg 基準年度比	— —	— —	140.29 —	—	853.84 —	794.07 93.0%	768.46 90.0%
水使用量の削減		m ³ 基準年度比	198 —	188 95.0%	181 91.4%	達成	318 —	293 92.0%	286 90.0%

注. 3 一般廃棄物削減は、自治体回収の可燃ごみを対象。自治体回収の可燃ごみは、2023年5月より計測を開始し、実績値を1年間に換算した。2023年度実績を基準値とする。

注. 4 組立工場の稲美工場への集約により、2022年度実績値を組立工場と稲美工場を合算して基準年度とし、2024年度以降は稲美工場のみ目標値を設定する。一般廃棄物は2023年実績を基準。

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.311 kg-CO2/kWh（2021年度関西電力調整後排出係数）

本社

年 度 項 目			2022年度 基準年度	2023年度			2024年度	2025年度
			(実績)	(目標)	(実績)	(評価)	(目標)	(目標)
二酸化炭 素排出量 削減	自動車燃料（ガ ソリン・軽油）	kg-CO2 基準年度比	9,847.3 —	9,650.4 98.0%	12,585.2 127.8%	未達	9,551.9 97.0%	9,453.4 96.0%
	参考値 上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	9,847.3	—	12,585.2	—	—	—
一般廃棄物の削減 注. 3		kg 基準年度比	0.0 —	— —	30.60 —	—	28.5 93.0%	27.5 90.0%

注. 3 一般廃棄物削減は、自治体回収の可燃ごみを対象。自治体回収の可燃ごみは、2023年5月より計測を開始し、実績値を1年間に換算した。2023年度実績を基準値とする。

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.311 kg-CO2/kWh（2021年度関西電力調整後排出係数）

環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度への展開

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

小野工場

取り組み計画	達成状況	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	○	・事務所の節電の為、電灯のこまめな消灯を開始し。また、エアコンの設定温度を決めた。
空調温度の適正化（冷房25℃ 暖房20℃）	○	・活動後の電力使用量の現状把握を行う。
不要照明の消灯	○	・射出成形の成形条件変更によりサイクル短縮できた製品がある。
生産方法の改善による時間短縮	○	・2F会議室と1F事務所のLED照明に変えた。
生産計画調整による機械稼働率の向上	△	＜次年度＞ ・新規設備の増加が予定されているが、生産性向上を図り、目標達成を維持する。
—	—	・冷却用水用クーリングタワー更新し、金型冷却向上
プロパンガスによる二酸化炭素削減		
数値目標	○	・給湯室へポスターを掲示し、節ガスを呼び掛けている。活動を継続する。
ガス機器における節ガスの呼びかけポスター掲示	○	＜次年度＞
—	—	・引き続き活動を継続し、現状維持を目指す。
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	×	・エコドライブの推進を周知した。
エコドライブの浸透	○	・エコドライブを徹底し、燃費の向上を語る。
効率的なルートで配送	×	・運送業者の都合による配送効率の低下。
—	—	＜次年度＞ ・新たな運送業者の開拓 ・自社トラック輸送の積載効率の向上
一般廃棄物の削減		
数値目標	—	・一般廃棄物の分別を徹底し、一般廃棄物（燃えるゴミ）は集積場所に運ぶ前に重さを計測し記録。
分別の徹底	○	・品質会議では資料を無くしてプロジェクターの活用。
排出量のデータ収集・集計を開始	○	＜次年度＞
会議資料のペーパーレス化	△	・計測の継続
—	—	・コピー用紙を減らす工夫が必要（裏紙利用） ・プロジェクター利用の拡大
産業廃棄物の削減		
数値目標	○	・産業廃棄物の置き場所を明確にした。
プラスチック材質毎の分別廃棄・回収	○	・廃棄プラスチックの分別回収の為、作業手順を明確にし、作業者へ周知する事で、分別が進んでいる。
廃棄・回収場所の明確化	○	＜次年度＞
従業員への教育・周知	○	・一般廃棄物との分別を確実にを行う。
水使用量の削減		
数値目標	△	・蛇口のこまめな開閉に心がけ、節水活動を開始した。
節水呼びかけポスター掲示	○	＜次年度＞
—	—	・12月度の増えた原因調査し、改善する。
化学物質（金型洗浄剤）の適正管理		
置き場所の指定席化（散逸防止）	○	・購入品の指定席化、適正在庫の設定及び管理を行い、在庫過多や在庫切れを起こさないよう適切に管理する。
適正在庫数の設定	△	＜次年度＞
在庫数の管理	△	・在庫管理の徹底と不良率低減に向けた金型メンテナンスの強化
—	—	
環境に配慮した生産活動		
不良率低減	○	・不良率の高いバイク部品を対象に、成形条件の見直しと成形機内の残留樹脂排出方法を変えてた。
—	—	不良率 3月3.8%⇒5月1.5%
—	—	＜次年度＞ ・不良率の高い別の製品に対し、対策を講じる。
課題を解決しチャンスを活かす取組		
工場運営方針の推進	○	・ISOの品質目標を明確にして、各部門毎に活動し、少しずつ成果が得られている。
—	—	＜次年度＞
—	—	・品質クレーム事案の解決の為運営方針を見直す。 ・目標達成に向け、活動を強化する。

組立工場

取り組み計画	達成状況	評価（結果／次年度は稲美工場と統合）
電力による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	○	・事務所の節電の為、電灯のこまめな消灯を開始した。作業エリアの作業台は作業性を重視し、休憩時以外は消さない。 ・エアコンの設定温度を決めた。 ＜次年度＞ ・作業台の消灯を工夫する。
空調温度の適正化（冷房25℃ 暖房20℃）	○	
不要照明の消灯	○	
—	—	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	×	・業務量増加に伴い、社有車使用が増えた。 ・エコドライブの推進を周知した。 ＜次年度＞ ・エコドライブを徹底し、燃費の向上を語る。
エコドライブの浸透	○	
—	—	
一般廃棄物の削減		
数値目標	—	・産業廃棄物、一般廃棄物の分別を徹底 ・一般廃棄物（燃えるゴミ）は集積場所に運ぶ前に重さを計測し記録。 ＜次年度＞ ・計測を継続する。
分別の徹底	○	
排出量のデータ収集・集計を開始	○	
—	—	
水使用量の削減		
数値目標	○	・蛇口のこまめな開閉に心がけ、節水活動を徹底。 ＜次年度＞ ・確実に行動するよう働きかける。
節水呼びかけポスター掲示	○	
課題を解決しチャンスを活かす取組		
多能工化	○	・作業出来る製品アイテムを増やす為に、作業経験を増やすローテーションを行っている。 ・OJTによる習熟度を高め、サイクルタイムの向上を目指す。 ＜次年度＞ ・習熟短縮の為、作業手順書を充実させる。
—	—	
—	—	
—	—	

稲美工場

取り組み計画		達成状況	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	×	・事務所の節電の為、電灯のこまめな消灯を開始した。また、エアコンの設定温度を決めた。	
空調温度の適正化（冷房25℃ 暖房20℃）	△	<次年度>	
—	—	・引き続き活動を継続。	
一般廃棄物の削減			
数値目標	—	・産業廃棄物、一般廃棄物の分別を徹底	
分別の徹底	○	・一般廃棄物（燃えるゴミ）は集積場所に運ぶ前に重さを計測し記録。	
排出量のデータ収集・集計を開始	○	<次年度>	
—	—	・計測を継続する。	
水使用量の削減			
数値目標	○	・蛇口のこまめな開閉に心がけ、節水活動を徹底。	
節水呼びかけポスター掲示	○	<次年度>	
—	—	・確実に行動するよう働きかける。	
課題を解決しチャンスを活かす取組			
出荷ミスの低減	○	・倉庫内の整理整頓を継続している。作業性の向上により出荷ミスが無くなった。	
—	—	<次年度>	
—	—	・MIC7の活用を高めていく。	

本社

本社		
取り組み計画	達成状況	評価（結果と次年度の取組内容）
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	×	・社有車の利用は営業活動を強化しており、利用距離が増えている。 ＜次年度＞ ・エコドライブを徹底し、燃費の向上を語る。
エコドライブの浸透	○	
－	－	
一般廃棄物の削減		
数値目標	－	・一般廃棄物（燃えるゴミ）は集積場所に運ぶ前に重さを計測し記録。 ＜次年度＞ ・計測を継続する。 ・ペーパーレスに向けた取り組みを検討する。
分別の徹底	○	
排出量のデータ収集・集計を開始	○	
－	－	
課題を解決しチャンスを活かす取組		
新規顧客の開拓	○	・商談会への積極的に参加した。 ・年末のプラスチック展示会へ出展し自社のものづくり力をアピールした。 ＜次年度＞ ・成形協力先の取引を拡大する事で新規需要を取り込む。
－	－	
－	－	
－	－	

環境関連法規など遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守状況
廃棄物処理法	処理業者との適正な契約並びに業者の許可証有効期限の確認	○
	マニフェスト伝票の管理（法定記載事項、照合確認、5年間保存）	○
	廃棄物置場の表示と保管基準の遵守	○
	マニフェスト交付状況の知事への報告（毎年6月30日までに）	○
消防法	防火管理者の専任及び所轄消防署長への届出	○
	消火設備の定期点検、消火器の有効期限少量危険物の届出、点検	○
フロン排出抑制法	空調機の簡易点検（3か月以内ごと）及び廃棄後3年間までの記録保存	○

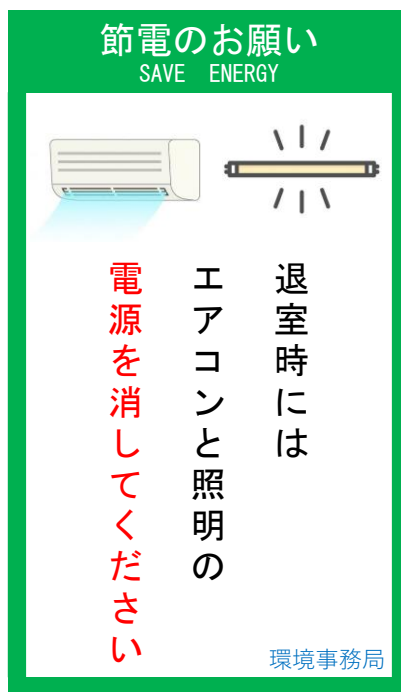
環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘及び訴訟等はありませんでした。

取り組み①

電気、ガス、水の削減活動

環境経営方針に基づき、電気、ガス、水の節約について、下記の掲示物により啓蒙活動を開始した。

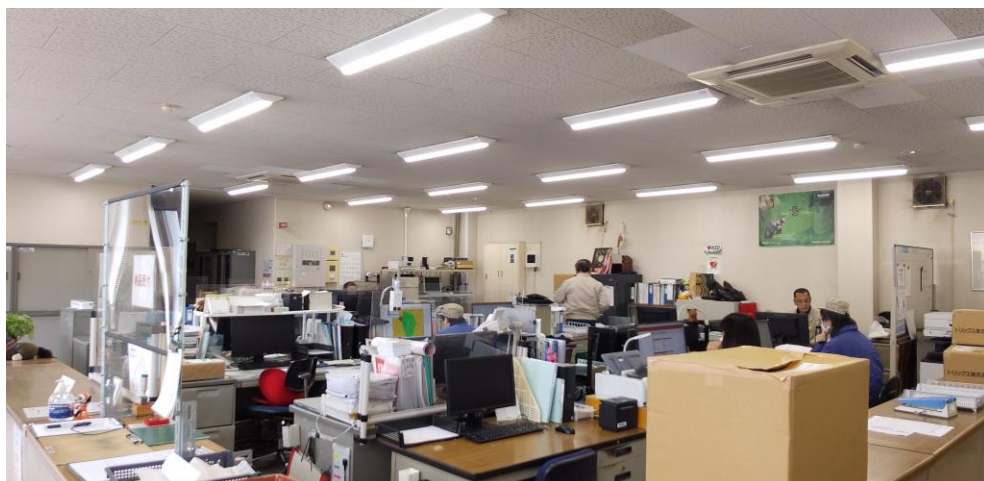


実施状況



取り組み② 照明器具の省電力対応

小野工場会議室と事務所の天井蛍光灯をLEDに取り換え



取り組み③ ガソリン・軽油の削減

「エコドライブ10のすすめ」を社有車を運転するドライバーへ啓蒙活動を行い、燃料削減活動を開始した。



取り組み④ 一般廃棄物の計量

一般廃棄物は自治体が回収している為、具体的な量が把握できなかった。そこで、廃棄物を重さで計量し、現状把握を行う事にした。各サイト毎に計量機を設置し、廃棄する前に重さを記録する活動を開始した。

ひ づ け 日付	おも 重さ		ひ づ け 日付	おも 重さ
5/8	1.84 kg	記入例	5/22	2.57 kg
/	. kg		/	. kg
/	. kg		/	. kg
/	. kg		/	. kg
/	. kg		/	. kg
/	. kg		/	. kg
/	. kg		/	. kg
/	. kg		/	. kg
/	. kg		/	. kg



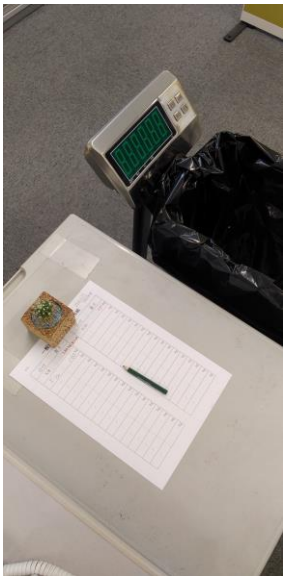
小野工場



組立工場



稲美工場



本社

取り組み⑤ 産業廃棄物置き場の明確化

産業廃棄物、一般廃棄物、廃棄プラスチックの分別を確実に行う為、産業廃棄物の置き場を明確に指定した。



取り組み⑥ プラスチック再利用への取組

プラスチック製品製造を事業とする我が社は、射出成形によりプラスチック製品を成形しているが、不良品などは廃棄している。これを再利用する事ができれば廃棄物の削減につながる。

しかし、プラスチックには複数の種類がありこれを混ぜてしまうと再利用が出来なくなる為、種類毎に分別回収することにした。成形作業者が容易に分別できるように、作業指示書には回収場所の番号を示す様に工夫した。

成形品(不良品)及びランナーの分別破棄・回収場所の確認方法

成形品(不良品)とランナーを破棄する場合は、生産管理板の【連絡／備考】欄の赤丸箇所に記入されている「分別No.」の場所へ分別破棄して下さい。(未記入の場合は、段替者へ確認願います。)
但し、ロングラン成形時、分別破棄用のフレコン袋が成型機付近に準備されている場合は、そちらのフレコン袋に破棄投入して下さい。

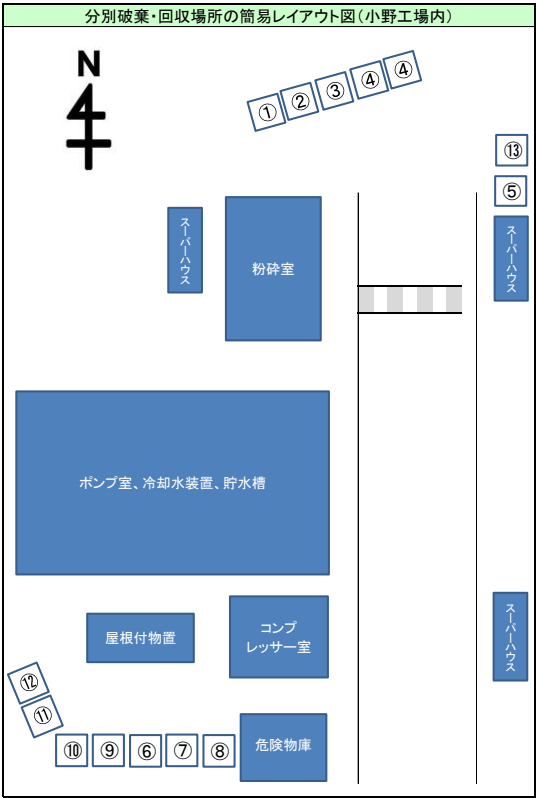
成形作業者は、ここを確認！

分別No.	分別対象	分別区分及び詳細内容
①	不良品・ランナー	ABSのみ
②	不良品・ランナー	PPのみ
③	不良品・ランナー	PPガラス入り
④	不良品・ランナー(廃棄プラスチック)	インサート入り、クッション材付、①～③に該当しないもの
⑤	廃棄樹脂原料(原料袋入り)	廃棄する樹脂原料
⑥	樹脂ダング	ABSのみ
⑦	樹脂ダング	PPのみ
⑧	廃棄樹脂ダング(混合)	パージ材、ABS、PP以外の樹脂ダング(⑥、⑦以外)
⑨	スプールバリアス専用	スプールバリアス専用(ビニール袋入り)
⑩	原料紙袋	原料紙袋
⑪	原料ビニール袋	原料ビニール袋
⑫	ストレッチフィルム	ストレッチフィルム
⑬	不良品・ランナー	債和工業向け排気ダクト専用

分別破棄・回収場所の表示の見方

【表示部の拡大】

① 分別No.
不良品・ランナー
ABSのみ
分別対象
分別区分 (詳細内容又は、写真)

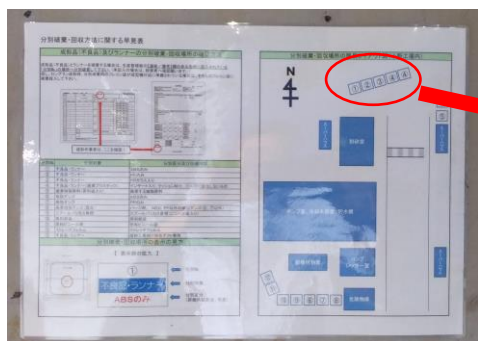
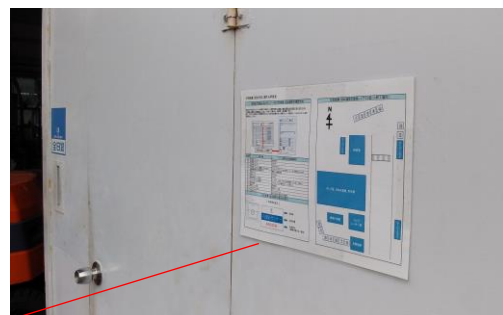


分別回収の実施状況

- プラスチック分別処理場所の判別方法
成形作業者に、「生産管理板」の備考欄に、段取り者が分別場所を番号で指定する

[illegible]

- プラスチック分別処理場所の確認方法
処分場所は出入口の扉に
地図を掲示し、作業者は
表示された番号の場所を
確認して処分する



処分プラスチックの回収実績

不良品などのプラスチックを、樹脂の種類に応じて分別回収する。

回収されたプラスチックは、リサイクル処理業者に売却できる。現在リサイクル業者は4社あり、月の回収量を記録した。現状では廃棄されるプラスチックも、さらに細分化する事でリサイクル可能となる可能性があり、リサイクル業者も増やして分別回収を拡大する計画である。

2023年 処分されるプラスチックの再利用状況

2023年	(Kg)												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
A社	2,000	4,390	5,845	2,480	3,920	4,810	6,860	6,130	6,480	4,830	6,050	5,570	59,365
B社		3,000						3,000			3,000		9,000
C社					1,298	1,181	2,067	924	668	882	2,385	666	10,071
D社		383											383
再利用	2,000	7,773	5,845	2,480	5,218	5,991	8,927	10,054	7,148	5,712	11,435	6,236	78,819
廃棄	3,570	4,340	8,530	8,350	5,050	8,400	9,040	4,230	8,200	3,590	7,430	4,920	75,650
合計	5,570	12,113	14,375	10,830	10,268	14,391	17,967	14,284	15,348	9,302	18,865	11,156	154,469
再利用率	35.9%	64.2%	40.7%	22.9%	50.8%	41.6%	49.7%	70.4%	46.6%	61.4%	60.6%	55.9%	51.0%

取り組み⑦

緊急事態への対応

・火災発生時、生産活動の早期復帰に対応する為、消火栓の使い方や注意点の指導を行った

(実施日：2023年11月27日)

消火器の使用方法説明



移動式粉末消火設備の使用方法説明



屋内消火栓の使用方法説明1



取り組み⑧

国際プラスチックフェア展示

・営業活動として、幕張メッセにて開催された「国際プラスチックフェア」に展示ブースを設けた。

来場者数88社 内引き合い見込み31社
(実施日：2023年11月27日～12月2日)



代表者の評価と活動への指示

作成日：2024年3月10日

代表者	環境事務局
松本	竹下

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

1. 見直しに必要な情報の提供（作成：2024年3月7日 環境事務局）

目標・環境活動計画の達成状況	目標項目	目標値 達成状況	活動計画 実施状況	コメント
	電力によるCO2の削減	○	○	生産性向上による設備稼働時間を抑えられたと思われる
	自動車燃料のCO2の削減	×	○	営業車、自社トラック共に移動が増加した事で燃料使用が増加した。エコドライブは継続している。 自社配送を増やす必要があり、輸送距離が増える為、積載率の向上とエコドライブを運動を継続する
	一般廃棄物の削減	－	○	可燃ごみ計測を開始した段階で比較できない。2023年度の計測結果を基に削減目標値を設定する。
	水道水の削減	△	○	12月度の使用量が大きく原因調査する。 引き続き節水活動継続
	産業廃棄物の削減	○	○	不良率を低減し廃プラスチックを削減できた。資源化も継続して増やす。
	プロパンガスによるCO2の削減	○	○	大きな変化は無いが節約活動継続
	金型洗浄剤の適正管理	○	○	保管場所の指定席化や購入量を最適化し在庫管理を徹底中
	【今後の取組について環境管理責任者からの提案】 冷却設備（クーリングタワー）の更新により、電力量を減らしたい。			
法的要求事項等の順守評価結果	環境関連法規制等は遵守されております。			
是正処置及び予防処置の状況	外部からの環境に関する苦情や要望はありません。			
前回までの代表者からの指示事項への対応状況	従業員全員が活動するように指示を受け、環境運営委員会に出席する部署責任者を通じて全従業員に活動を働きかけている。			
その他	2024年より組立工場が稲美工場へ移動する。環境経営計画を見直す。			

2. 代表者による全体の評価と見直し・指示（作成：2024年3月8日 代表者）

環境経営方針	変更の必要性 ☐ 要 ☒ 否 【指示】引き続き方針内容を従業員全員へ浸透させる事
環境目標&活動計画	変更の必要性 ☒ 要 ☐ 否（組立工場の移転） 【指示】組立ラインの移動により新たな活動計画と目標を設定する事。 また、冷却水設備の更新と作業エリアの冷房化に取り組む事。
実施体制	変更の必要性 ☒ 要 ☐ 否（組立工場の移転） 【指示】組立工場の移動により体制を変更し活動する事
その他	変更の必要性 ☐ 要 ☒ 否 【指示】なし
総括	2023年度の環境経営計画に基づいた環境目標に対し、目標達成項目もあれば未達成の項目もありました。2024年度は未達成の項目について改善策を検討し、新たな環境経営計画を策定して従業員全員で目標達成に向け活動してください。クーリングタワーの更新による電力費削減を行ってください。ただし、暑さ対策に関する設備電力費の増加を考慮して下さい。